

建築物名称	ニットク新工場 新築工事
受付日	平成30年7月31日
建物所在地	富士市今泉字高尾奈497-2、-3、-8、-11、498-1
構造規模等	鉄骨造／地上3階／延床面積3,299.77平方メートル／新築
建物用途区分	工場
建築主	ニットク株式会社 代表取締役社長 井出純一
設計者	シーエスディー研究所株式会社 中村慎
工事完了予定日	平成31年1月31日

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ニットク新工場	階数	地上3F
建設地	静岡県富士市	構造	S造
用途地域	工業地域、工業専用地域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,400時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2018年7月1日
敷地面積	1,650㎡	作成者	中村慎
建築面積	1,153㎡	確認日	
延床面積	3,300㎡	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%☆☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆☆

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Qのスコア = 2.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.0

**LRのスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	「これはCASBEE静岡(〇〇年版)による評価結果です。」を入力します。	
その他	0	
Q1 室内環境	オールフレッシュ型空調を採用し内装壁を設け断熱材を入れることにより室内環境に配慮しました。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	天井高を高く、窓を多くはいちすることにより工場作業者に閉塞感をあたえないように配慮しました。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	無し	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	照明設備を全てLEDとした。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	屋外鉄部にはMgを多用し将来的な再塗装や補修を減らすようにしました。再生砕石を使用します。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	敷地が主要幹線道路の交差点に近接している為、車両出入り口を裏側の道に設置し道路の渋滞に考慮しました。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	ニトク株式会社	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度							
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.0	/5		ふつつ			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5		ふつつ			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.9	/5		がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	1.0	/5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上		ふつつ 3 点以上	
				がんばろう 3 点未満			

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目				
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。						
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点		3.0		
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①ダブルスキンの採用による開口部の温熱環境の向上。 ②ライトシェルフの採用。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦ダブルスキンによる高断熱化。 ⑧自然通風、ライトシェルフによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩BEMSの導入によるエネルギー管理。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪雨水利用設備の導入による雨水の有効利用。 ⑫地下躯体部分における高炉セメントの採用。 ⑬不活性ガス(CO2)消火設備の導入。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭省エネルギー対策と、高炉セメントの採用。 ⑮外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-1	2	2.1	2.2	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	④ 躯体材料の耐用年数	
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
				2.2.2	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
				2.2.3	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
			2.2.4	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.5	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
			2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3	1		⑤ 生物環境の保全と創出	
			3	3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
		LR-1	1		⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧ 自然エネルギー利用	
			3		⑨ 設備システムの高効率化	
			4	4.1	⑩ モニタリング	
				4.2	⑩ 運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪ 節水	
				1.2	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
				1.2.1	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪ 材料使用量の削減	
			2	2.1	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
				2.1.2	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.1.3	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.1.4	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
				2.1.5	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
				2.1.6	⑫ 有害物質を含まない材料の使用	
			3	3.1	⑬ 消火剤	
				3.2	⑬ 断熱材	
				3.2.1	⑬ 断熱材	
				3.2.2	⑬ 断熱材	
				3.2.3	⑬ 断熱材	
		LR-3	1		⑭ 地球温暖化への配慮	
			2	2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点		3.1		
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯制振装置の採用。</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性	
					2.1.2	⑯ 免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
					2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備
					2.4.3	⑰ 電気設備
					2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法
					2.4.5	⑰ 通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点		1.9		
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑街並みに配慮し、木材等自然素材を活用した外装とした。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
					3.1	⑲ 階高のゆとり
					3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ
		Q-3	3	3.1	㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点		1.0		
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ⑳敷地内既存大景木の建物廻り再配置により外構緑地指数50%以上を確保した。 ㉓緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) ㉔外構の全舗装面に保水性ブロックを採用した。主風向に対する見付面積比を50%以下とした。</p>	Q-3	1			⑳ 生物環境の保全と創出	
					2	㉒ まちなみ景観への配慮
					3	3.2
		LR-3	2	2.2	㉔ 温熱環境悪化の改善	